

MODEL : RRQC-F1D/F2D・RRQK-F1D/F2D 取扱説明書

この取扱説明書は、本製品をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取り計らいください。
本製品を安全にご使用いただくため次の事項をお守りください。
また、ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

・ 注 意

感電の恐れがありますので、下記の事項をお守りください。
・補助電源端子へ接続する場合は、活線状態で行わないでください。
・端子への接続は緩みのないようにしっかりと締め付けてください。
・通電中は端子に触れないでください。
次のような場所では使用しないでください。故障、誤動作等の原因となります。
・雨、水滴、日光が直接当たる場所。
・高温、多湿やほこり、腐食性ガスの多い場所。
・外来ノイズ、電波、静電気の発生が多い場所。

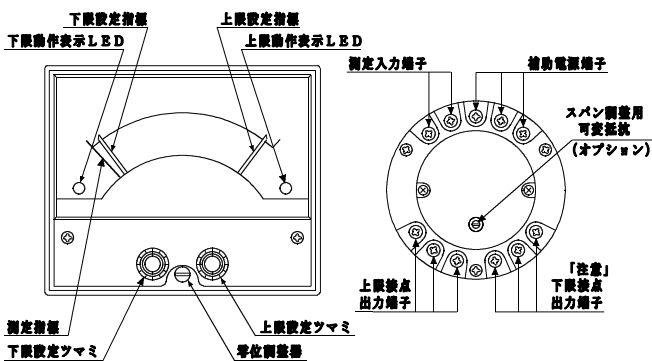
■点 検

製品がお手元に届きましたら、仕様の違いがないか、また輸送上での破損がないか点検してください。本計器は厳しい品質管理プログラムによるテストを行って出荷しています。品質や仕様面での不備な点がありましたら形名・製品番号をお買い求め先又は当社営業所迄ご連絡ください。

■使用上の注意

- ①精密計器のため、運搬、取付け、その他取り扱いには十分ご注意ください。
- ②本計器には電源スイッチが付いていませんので、電源に接続すると直ちに動作状態になります。
- ③電源回路にノイズ・サージ等が混入し誤動作、故障が発生する恐れのある場合には適当なノイズ対策が必要です。
- ④本計器がサージ電圧にさらされる危険のある場合には、測定入力端子の片方をアースしてご使用ください。
- ⑤本計器の仕様・規格に適合する範囲でご使用ください。

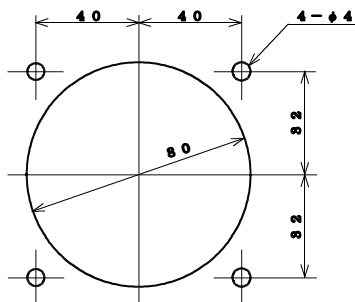
■各部の名称



「注意」形名末尾がF1Dの場合は下限設定ツマミ、設定指標、動作表示LED及び接点出力端子がありません。

■パネルカット寸法

右図参照



■本体の取付方法

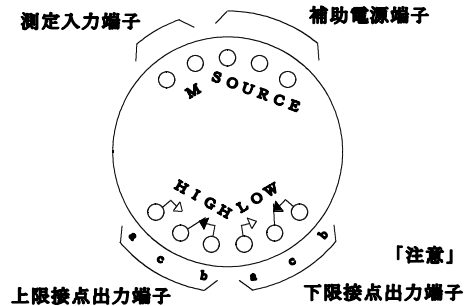
パネル前面から本計器を挿入し、つぎにパネル裏面の四隅の取付ボルトに付属のナットをナット回し等で締め付けてください。

ナットの適正締めトルク
: 0.43~0.58N・m

■配 線

本計器の端子はM3ねじです。圧着端子などで正確確実に配線してください。

端子ねじの適正締めトルク : 0.43~0.58N・m



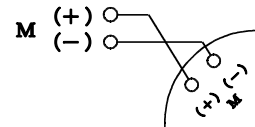
「注意」形名末尾がF1Dの場合は下接点出力端子がありません。

●測定入力端子

測定入力ラインと電源ラインはできるだけ離して配線してください。測定入力ラインと電源ラインが平行に配線されますと指示不安定の原因となります。

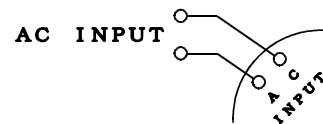
①直流電圧計・直流電流計・受信指示計

極性を間違えないように測定入力を接続してください。また、指定された付属品のある場合は付属品を接続してください。



②交流電圧計・交流電流計

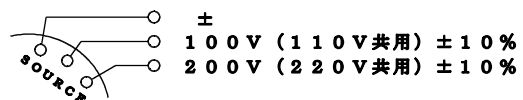
測定入力を接続してください。また、指定された付属品のある場合は付属品を接続してください。



●補助電源端子 (SOURCE)

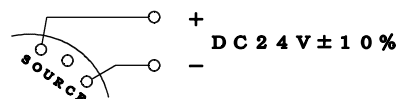
①交流電源仕様

補助電源端子 (SOURCE) には、
AC100V電源の時には、端子±、100/110Vに、また
AC200V電源の時には、端子±、200/220Vに接続してください。



②直流電源仕様

補助電源端子 (SOURCE) には、DC24Vを極性を間違えないように接続してください。



●上限接点出力端子（HIGH）、下限接点出力端子（LOW）

上限接点出力、下限接点出力の接点容量は

抵抗負荷にて AC 250V, 3A又は
DC 30V, 3Aです。

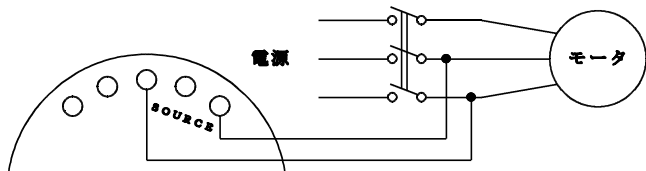
この容量に合った電線を用いて配線してください。この容量より大きなリレー制御の必要な場合には外部に補助リレーを設けてください。

■オプション仕様

○パワーオンディレイ回路（-T2, -T5, -T10）

パワーオンディレイ回路はメータリレーの電源投入と同期しますので、電源は測定ラインの電源から供給してください。

（ディレイ時間：-T2：2秒, -T5：5秒, -T10：10秒）



■運 転

①入力定格、補助電源の電圧を確認し、配線に間違いのないことを確認してください。

②測定を開始する前に、測定指標の零位（入力定格がDC 4～20mA又はDC 1～5Vの場合には、基準電圧電流発生器などでDC 4mA又はDC 1Vの信号を測定入力端子に入力したとき）を確認してください。

もし、零位のずれがある場合には、本計器の前面にある零位調整器を回して指標が0を指示するように調整してください。

③上限（又は下限）設定ツマミを回して設定指標をリレー動作の希望の位置に設定してください。設定指標は目盛範囲より少しオーバーする位置で止まりますが、それ以上無理に設定ツマミを回すと故障の原因となりますのでご注意ください。

④補助電源を投入し測定指標が設定指標（設定点）を越えるとリレーが動作しa-c間はON（導通）、c-b間はOFF（開放）となります。

■校 正

スパン調整器が附属している場合には、長期的確度保持のため約1年毎に校正してください。校正は本計器の前面の零位調整器及び後部のスパン調整用可変抵抗で行ないます。

校正は23℃±5℃、75%RH以下の周囲条件で行なってください。

●この取扱説明書の仕様は、1999年12月現在のものです。

ハカルプラス株式会社

本社・工場 〒532-0027 大阪市淀川区田川3-5-11

TEL 06(6300)2112

FAX 06(6308)7766